



2013年9月1日～6日参加

社会人 万里子さん

当初は、ネパールの人身売買に関する支援をしているNGOのスタディーツアーに行こうと思っていたのですが、日程が合わず、では新しい国に行ってみよう！と思立ち、たまたま見つけたCMCのツアーに参加しました。

実は他にも色々な団体がスタディーツアーを実施していたし、CMCは拠点が福岡なこともあって事前にお会いすることはできなかったもので、迷いました。しかし、これまで長期にわたりカンボジアに支援をされていたこと、一生に一度はアンコールワットを見たい、と思っていたことから、CMCのツアー参加を決めました。

私は学生時代、何回かワークキャンプに参加したことはありますが、スタディーツアーは初めてでした。ワークキャンプは、土木作業やイベント企画・運営の手伝いなど、現地でボランティア WORK をするキャンプです。一方スタディーツアーというのは、その国の課題について学ぶため、色々な場所を訪れたり色々な方と話したりと、文字通り STUDY するツアーです。そのため、友人に「夏休み？仕事？」と言われるくらい内容が盛り沢山でしたが、その分たくさんの学びがありました。簡単ですが、印象に残った場所の感想です。

■ CMC コーンライ夢中学校

地雷が撤去された跡地に建てられた学校を訪問しました。中学校へ向かう車の中で、カンボジア語で子どもたちの印象に残る挨拶ができるように簡単なカンボジア講座をしてもらいました。子ども達には、日本について知っていることを聞いたり、指さし会話帳を使って日本語・カンボジア語・英語でカンボジアことを教えてもらったりしました。



■ CMC トゥールポンローみおつくし中学校

コーンライ夢中学校と同様、地雷原跡地に建つ学校です。違いは、学校の敷地以外は今も地雷が埋まっているかもしれないと注意を受けたことでした。

カンボジアでは、「地雷撤去」の印がない場所は、「地雷が埋まっている」のか、「地雷が撤去されたのか」分からない場所だと聞き、一見平和そうに見える場所にもそういう危険があるということに驚き、やるせない気持ちに



になりました。そのような場所で勉強している子どもはどんな気持ちなんだろうと思いましたが、実際に会ってみるととても元気な子ばかりで、縄跳びや追いかっこ（のようなカンボジア式の遊び）をして楽しく過ごせました。

■ 戦争被害者の体験談

戦争で失明された方のお話を聞きました。印象に残ったのが、「自分が失明したことについてどう思うか」という質問に対し「カルマだと思う」という答えが返ってきたことでした。地雷被害者もそうらしいのですが、前世の行いが悪かったから現世でこのような仕打ちにあった、と考える人がいるそうです。周りの人もそう考え、そのこ

とが偏見に繋がってしまうこともあるそうです。宗教は様々な救いを与える一方で、このような弊害ももたらすのだと感じました。

■アキラ博物館



事前に本や映画で勉強していたものの、当時を経験されたアキラ氏の考え・気持ちや、実際に使用されていた兵器を見ると、本当にこの戦争や被害が存在しているのだと、強く実感しました。

進む地雷撤去、その一方で地雷撤去に係る支援金の着服、地雷被害者への十分でない支援など、戦争が終わった今も残る課題に加え、カンボジアという国自体に対する課題を知ることができました。

■義足リハビリセンター

義足が作られる様子と、地雷被害によって義足をつけている方のお話をお聞きしました。地雷被害によって体に無理がきかなくなり、以前のような農作業は難しいという方もいらっしゃいました。しかし、戦争時に教育が悪とされていたため十分な読み書きができず、体が不自由であるにも関わらず、肉体労働以外の仕事の選択肢がないという声もありました。内戦が終わって約 20 年が経ちますが、その爪痕が今も残っていることを実感し、また今後のカンボジアの課題になっていくのではと感じました。



■全体を振り返って

元を取らねばと思い（笑）、割と勉強してから現地に行きましたが、実際に現地を見て話を聞くことで、カンボジアの本当の姿が少し見えた気がしました。今回のツアー

でカンボジアを好きになったこともあり、自分ができる何かをしたいという気持ちも生まれました。しかし、日本ではカンボジアを含む海外の問題に対してあまり関心が持たれていないと感じます。少しずつでもいいから、カンボジアで今も苦しんでいる人がいるということを周りの人に伝えていきたいと思いました。